

令和 7 年度
自己評価報告書

群馬自動車大学校

令和7年6月作成

第(1)回点検・評価(令和7年5月)

1 教育理念

自動車に関する最新の知識と技術を修得させ、人間性豊かな整備士を養成し自動車関連業界で活躍できる人財を送り出す。

次のような整備士を養成する。

- (1) 知識・技術・人格を身に付けた整備士
- (2) 向上心を持ち技術革新に対応できる整備士
- (3) 各種資格を取得し接客対応できる整備士

2 教育方針

誰からも喜ばれ感謝される魅力ある学校づくりを目指すとともに、社会に貢献できる多くの人財を育成することに挑戦し続けます。

3 重点目標

- (1) 募集定員及び内部進学者の確保(1級70名、2級175名、車体30名、カスタマイズ10名
国際メカニック88名)
- (2) 就職率の向上 100%
- (3) 資格取得率の向上 100%

4 評価領域・評価項目・達成状況

(適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1)

(1) 教育理念・目標

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ・教育理念・教育方針・育成人材像は定められているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・教育理念等が社会の要請に的確に対応できるよう適宜検討・見直しを行っているか | | | | |
| | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・教育理念等を達成するための特色ある取組がなされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・育成人材像は関連企業の人材ニーズに適合しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・教育理念等を関係企業・団体等へ情報発信しているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ・教育理念等が学生・保護者等に周知されているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

① 課 題

ア. 時代の変化に応じて社会が求める自動車整備士を育成するために教育理念・教育方針・教育目標等の検討・見直しが常に求められている。

イ. 機会あるごとに教育理念・目標等が関係企業・学生・保護者に理解していただくよう努力しているが、さくら連絡網等の利用を促しているが、周知されていない面があり改善策が必要。

② 今後の改善方策

ア. 各種会議において適宜、理念・方針・目標等について評価・総括を行い全教職員の共通認識に立

った議論を進めていく。

イ. 企業・団体・高校等の訪問、企業説明会等あらゆる機会を通して一層確実に伝えていく。

ウ. オープンキャンパス、入学ガイダンス、PTA 総会、個別面談会等での説明、学校案内やスクールガイド等の印刷物、担任による面談等の機会を通して学生・保護者への周知徹底に一層努めていく。

エ. 学校行事や教育活動、近況、学校評価報告書等をホームページに掲載しており相応の成果を上げている。

③特記事項

・なし

(2) 学校運営

・教育理念等を達成するための事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・各分掌間の連携及び意思決定システムが整備されているか	4	③	2	1
・コンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・教職員の確保及び資質向上のための研修等がなされているか	4	③	2	1
・組織的かつ時宜を得た広報活動が行われているか	④	3	2	1
・他校にはない特色化を推進しているか	④	3	2	1
・教育活動全般について外部関係者等による評価を実施し活用しているか	④	3	2	1

①課 題

ア. 今年度から学校経営計画を策定し、計画に基づき各部署が「方針と施策」を策定する体制に変更した。設備投資計画を含む中期学校経営計画の策定が必要である。コンプライアンス体制の更なる構築が課題である。

イ. 各分掌の業務の明確化のもと相互連携に努めているが、教職員間の共通認識が一部徹底されていない面が見られる。

ウ. 各分掌の事業計画、目標は策定されているが、全体としての事業計画との整合性が一部明確化されていない面が見られる。

エ. 優秀な教職員確保は喫緊の課題であり、学生の教育指導上極めて重要であり、絶えず企業・同窓会等との連携・情報交換を更に密にして教職員の確保につなげていかなければならない。また、教職員が高度技術化に適切に対応するため企業と連携し研修・講習を行っているが、更なる資質向上が求められ、企業、高校生、保護者から選ばれる授業内容とすることが必要である。

② 今後の改善方策

ア. 継続的に企業及び関係団体への職員採用計画の発信及び協力依頼を実施していく。採用にあたっては組織全体の長期的な年齢構成も考慮する。また教職員の資質向上については引き続き各種研修・講習会への積極的参加に努めていく。

イ. 日々の打ち合わせ、事務連絡・定例会議等での報告にとどめず、意見交換の充実を図るとともに、文章、社内メール、掲示板等の回覧による意思疎通、情報化の共有を図るため意見交換の場を増やしていく。

ウ. 各分掌で策定される事業計画は、全体として事業計画との連携を明確にした上で、具体的な施策を立案する体制としていく。

エ. 教務部をコンプライアンス担当部署としてコンプライアンス体制拡充及び教員の確保、各部署ごとの規定類の整備を進めていく。

③ 特記事項

- ・ 文部科学省「専修学校における学校評価をガイドライン」を踏まえ自己評価委員会、学校関係者評価委員会において学校運営全般について行っている。(結果をホームページに掲載)。

ア. 自己評価委員会 6 月、11 月開催

イ. 学校関係者評価委員会 7 月、12 月開催

ウ. 昨年 6 月より企業からの出向職員受け入れを試行的に開始したが、本年も継続となった。

(3) 教育活動

- | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| ・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施がなされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・ 教育課程の編成において企業・関係団体等の意見聴取を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・ 時代の変化に即応した教材の開発、指導方法の改善等がなされているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準が明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・ 一人ひとりの個性・能力に応じた学習指導が行われているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ・ 資格取得に関する指導体制、カリキュラムにおける体系的な位置づけはあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・ インターンシップ等の実践的な職業教育が体系的に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・ あいさつ・礼儀等の社会生活に必要な指導が適切になされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ・ 企業・大学等と連携した授業が行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

① 課 題

ア. 自動車の電動化、エレクトロニクス化や自動運転技術が急速に進歩するなかで、時代に即した教材の開発、導入や指導方法への ICT、生成 AI 技術の活用が必要となってきた。

イ. 多様化している学生一人ひとりの個性・能力に応じた教材開発や指導体制の強化（カウンセリング導入）、指導内容の改善等に努めていくほか、学生と向き合っていく時間の確保、また大学とは異なる教育の取り組みを実施していく。

② 今後の改善方策

ア. 学生の国家資格取得及び教材開発や指導法の改善を図るため、業界団体や企業等の連携を一層深め、理解度向上を図るため、電子黒板の導入に合わせて画像・動画等を多く使った授業の展開。

イ. これまでの JAMCA（全国自動車大学校・整備専門学校協会）や TCE 財団（職業教育・キャリア教育財団）、群馬県自動車整備振興会、群馬県自動車車体整備協同組合、メーカー・ディーラー等が主

催する専門技術に関する講習・研修会、指導力向上のための研修会等への職員を積極的に参加させている。併せて、学生の心情・心理を理解したうえで学習意欲を高めるためにカウンセリングの専門家による職員研修も継続的に実施していく。また、教育課程編成委員会での意見等を参考に学生一人一人の個性・能力に応じた指導方法や習熟度別学習編成、教材開発の更なる改善に努めていく。

③特記事項

・教育課程編成委員会の開催

例年通り 7 月、2 月に開催予定。企業・団体・学識経験者・教職員 10 名が委員。

・カリキュラム検討委員会の設置

自動車整備士技能検定規則等の一部改正に伴い、今後「一級の学科試験における口述試験の廃止」及び「二級におけるガソリン資格、ジーゼル資格の統合」等が予定されている。これらを踏まえて適切かつ充実したカリキュラムを編成するため教務を中心に検討を始める予定。

・インターンシップの実施

一級自動車整備科 4 年生が約 1 ヶ月間、就職内定先等で実施。

・企業等と連携した実習授業・講習会等

- ① ネットヨタ栃木（株）「一級自動車整備科」
- ② 群馬日産自動車（株）「二級自動車整備科・国際メカニック科」
- ③ 群馬日産自動車（株）他関連企業 日産セミナー「二級自動車整備科」
- ④ （株）関東マツダ 他関連企業 マツダセミナー「二級自動車整備科」
- ⑤ 損保ジャパン（株）損害保険募集人講習「二級自動車整備科」
- ⑥ スズキ自販群馬（株）他関連企業 スズキ技術講習会「二級自動車整備科」
- ⑦ （一般社団法人）労働安全衛生管理協会 有機溶剤作業主任者技能講習 「自動車車体整備科」
- ⑧ 群馬ダイハツ自動車（株）セミナー「二級自動車整備科」
- ⑨ コーンズ・モータース（株）フェラーリ研修「自動車車体整備科」
- ⑩ 特定化学物質 4 アルキル鉛等作業主任者講習「自動車車体整備科」「教員 3 名」今年度 1 名受講予定
- ⑪ 関西ペイント（株）塗装講習 「自動車車体整備科」
- ⑫ 磨き講習 「2 級自動車整備科」
- ⑬ タイヤ空気圧充てん講習 「二級自動車整備科・国際メカニック科」

・大学と連携した授業・研修会

- ① 群馬大学副学長（理工学部大学院教授）による「環境」授業「一級自動車整備科」
- ② 群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター見学（自動運転プロジェクト研修）

・教職員研修の実施

- ① （一般社団法人）群馬県自動車整備振興会「整備主任者技術講習会」
- ② JAMCA 夏季研修 （8 月）
- ③ 日産自動車研修（8 月）
- ④ カウンセリング講習（8 月・3 月）
- ⑤ いすゞ自動車研修
- ⑥ 特定化学物質及び 4 アルキル鉛等作業主任者技能講習（7 月）

- ⑦ JAMCA 新技術・車両診断研修会（8 月）
- ⑧ 学校活動支援サービス体験・研修会
- ⑨ 豊田自動織機・L&F 説明会
- ⑩ スバルメカニク体感授業・研修会
- ⑪ 群馬大学次世代モビリティイノベーション協議
- ⑫ 群馬県各種専修学校各種学校連合会教員認定講習会
・クラブ活動

- ① 野球部～令和 5 年度「全国大会ベスト 8」
- ② ソーラーカークラブ～
- ③ ボランティアクラブ～地域の里山での自然保護活動、災害地での諸活動

（4）学修成果

・就職率が目標通り達成できているか	④	3	2	1
・校内進学が目標通り達成できているか	4	③	2	1
・留年・退学が低減できているか	4	③	2	1
・資格・検定取得が目標通り達成できているか	④	3	2	1
・卒業生の活躍・実績等を在校生の教育に生かしているか	④	3	2	1

①課 題

ア．一級自動車整備科への進学希望者が年度によって増減が見られることからさらなる内部進学への努力が求められる。自動車車体整備科、カスタマイズ科への進学についても同様の傾向がみられることから一層の努力が求められる。

イ．留年・退学の防止については全職員が一丸となって取り組み、相応の結果を出しているが、保護者の経済的な理由や学生の進路変更などにより「退学者ゼロ」には至っていない。

②今後の改善方策

ア．引き続き高校訪問やオープンキャンパス等で「一級」・「車体」・「カスタマイズ」の魅力・優位性などを発信していく。特にオープンキャンパス・見学会において全職員が参加高校生・保護者へ丁寧に内部進学の優位性等の説明を行い、その価値・将来性などについてより丁寧な説明を行う。

イ．昨年度末から試験的に取り入れた「サカセルラボ」を今年度より正式に導入して、学生一人ひとりの状況を把握することで学生対応、保護者対応の緻密な指導・連絡等を展開し退学防止に努めている。退学率改善を今年度の KPI 項目として、低減に取り組む。

ウ．オープンキャンパス、学校説明会等で自動車整備の魅力・将来性・各種奨学金制度について入念な説明を行っているが、さらなる充実に努める。入学後は学生一人ひとりの能力・個性を理解しきめ細かな学生指導、生活指導、教育相談を充実させるとともに、奨学金制度の周知・活用を促し退学者ゼロを目指す。

③特記事項

・就職率は 100%を達成。これは開校以来、各企業との信頼・協力関係のもとずっと継続しているものである。

・教職員の教育相談の力量を向上させるため毎年、専門家による「カウンセリング研修」を実施して

いる。

・資格取得については常に 100%合格を目指し教職員一丸となって取り組んでいる。「一級」については「筆記試験」と「口述試験」（卒業後に実施。令和 6 年度は、令和 7 年 5 月 11 日（日）渋谷ベルサール会場で実施）があり、長期にわたって一人ひとりの能力・学習状況等踏まえたきめ細やかな指導により 98.2%合格であった。今後とも 100%合格を目指し JAMCA（全国自動車大学校・整備専門学校会員校との情報交換やグループ校である東京自動車大学校との対策会議を継続していく。

（５）学生支援

・進路に関する支援体制が整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制が整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制が整備されているか	4	③	2	1
・学生の健康管理に関する体制が整備されているか	4	③	2	1
・保護者との連携は適切に行われているか	④	3	2	1
・PTA活動が適切に行われているか	④	3	2	1
・同窓会活動が適切に行われているか	④	3	2	1
・企業との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課 題

ア．近年、指摘されていることの多い「多様化している若者たち」と同様、本校においても「多様化している」学生は少なくない。彼らの精神的な問題や悩み、学習、健康管理等に関して学年主任、担任、学年団がその相談・指導に努めているが、さらなる充実が望まれている。

イ．卒業生の多くが各所で活躍されており、同窓会として卒業生（同窓生）・在校生のコミュニケーションの機会の設定が一層求められている。

② 今後の改善方策

ア．学生一人ひとりの課題（学習、人間関係、健康管理など）に応じた相談体制を確立する。そのため引き続き教職員のカウンセリング研修を通じて職員の教育相談・カウンセリング等の指導力向上を継続的に図っていく。また、医療機関と連携して健康診断結果を踏まえた健康管理指導を充実させるとともに、「健康増進法の一部を改正する法律」を踏まえて受動喫煙による健康被害についても学生への指導を一層強化していく。

イ．卒業生・在校生の情報交換会、卒業生による実技指導・講話の実施を図る。また、企業から貸与されている教材車両等を積極的に授業に取り入れていく。

③特記事項

・PTA との連携

① 総会（6 月）～多くの会員が出席

② 個別面談会～8 月 5 日（火）、6 日（水）、7 日（木）の 3 日間で実施予定

・同窓会との連携

以下の日程で役員会、連絡会を開催し情報交換・協議等に努め学校運営に理解・協力をいただく。

① 役員会～5 月 23 日（金）開催。10 月 29 日（水）予定の連絡会は役員会との交流会とすることを決定。

・企業との連携（キャリア教育・職業教育）

① インターンシップの実施

一級自動車整備科 4 年生が約 1 ヶ月半、企業等の現場で研修。

② 企業との連携した実習授業・講習会等の実施

第一線の現場で活躍している企業の方によるキャリア教育。

・昨年 5 月より、スクールカウンセラーによる月 2 回のカウンセリングを導入した。

令和 6 年度は、累計 49 名、実数 24 名がカウンセリング実施。

(6) 教育環境

・施設・設備が教育上、必要かつ十分対応できるよう整備されているか

④ 3 2 1

・施設・設備が安全管理・防災上、適切に整備されているか

4 ③ 2 1

・校内の清掃・美化が適切に行われているか

④ 3 2 1

① 課 題

ア. 常に学校教育目標達成のため、実習車の更新、施設・設備の点検・回収等のハード面の充実に努めているが、今後、老朽化による施設・設備等の不具合等を考慮した上、計画的に対応していくことが求められている。また、古い基準のままの設備や壊れている設備の修繕、安全確保・防災面の視点からも環境の整理・整頓・美化が絶えず求められている。

② 今後の改善方策

ア. 引き続き教育活動の充実・振興計画と併せて実習車の更新・導入、施設・設備の点検・改修・美化等の充実に努めるとともに、常に安全確保・防災に向けての長期的かつ優先的な計画立案に基づき検討を進めていく。

③ 特記事項

・「健康増進法の一部を改正する法律」（平成 30 年 7 月 25 日）により第一種養成施設として「敷地内禁煙」（令和元年 7 月 1 日施行）となったことを受けて「特定屋外喫煙場所」を設置している。学生・教職員・外来者の理解のもと引き続き適切に運営していく。（成人用カード配布）

(7) 学生の受入れ募集

・高等学校等への情報提供は適切に行われているか

④ 3 2 1

・学生の募集活動は適正に行われているか

④ 3 2 1

・学生納付金は妥当なものになっているか

4 ③ 2 1

① 課 題

ア. 長年にわたり継続的に高校訪問を行い情報提供及び担当教職員との信頼関係作りに努め成果を上げてきているが、他校にはない本校の優れた教育内容・特色が高校生に十分伝わっていない面も見られ募集定員の確保に至っていない。

イ. 学生納入金については、昨今の物価上昇を反映できていない状況にあるが、保護者の経済的負担を鑑みれば簡単に引き上げられない状況にある。

② 今後の改善方策

ア. 今後とも高校の教職員・生徒・保護者等にとってわかりやすい魅力的な広報資料（SNS 等の映像

媒体を含め)の作成やオンラインによる情報提供など時宜を得た提供を図っていく。

イ. 当面は学習環境に影響のない範囲で電力エネルギー等の節約できる範囲を見直して、収支改善を図っていく。

ウ. 進路部を主として、採用企業に積極的に企業奨学金、社員枠制度の情報提供し各企業の採用枠拡大を図る。

③特記事項

国際メカニック科は、外国人留学生を対象とした3年制の二級自動車整備士養成課程であり、開設当時は日本語能力が懸念されたが、これまでのところ特に問題はない。県内、県外を問わず日本語学校が非常に協力的であり企業の採用状況も良好である。

(8) 地域との連携

・市や区・町等と連携した活動を行っているか	4	③	2	1
・警察、消防署等と連携した活動を行っているか	④	3	2	1
・地元高校・大学・企業等と連携した活動を行っているか	④	3	2	1

① 課 題

ア. 地元の市・区との連携、警察署・消防署との連携は通常適切に行われており、また高校、大学、企業との連携も強化されてきている。今後は広い意味で地域社会との連携活動が求められている。

② 今後の改善方策

ア. 学生のクラブ活動としてボランティアクラブが発足して12年目になる。これまで東日本大震災等の被災地での活動のほか、地域の里山整備を行っているボランティアクラブとの連携活動も行っている。また、校舎周辺の道路等の清掃美化活動を適宜実施している。今後ともこうした地域に根ざした活動をさらに推進していく。

③特記事項

・ぐんまハイスクールロック・フェスの開催

高校生の音楽活動の場、その目標の一つとして本校が主催するロックフェスティバル。令和6年度は、14校27バンドが出場。昨年度より動画による予選会を経て8月20日(日)に開催。今年度も同様に予選が7月20日(日)、21日(祝)本校食堂、本選が8月17日(日)伊勢崎市境文化センターで開催予定。

・毎年、高校より依頼があり文化祭や授業実施に協力、重要講話等の実施

- ① 伊勢崎警察署による交通講話を実施(6月)
- ② 国土交通省群馬運輸支局による出前講座「不正改造防止等について」(6月)
- ③ 日本赤十字社群馬県支部「救命法基礎講習会」(6月)
- ④ 太田工業高等学校文化祭
- ⑤ 水戸桜の牧常北高等学校文化祭
- ⑥ 長野工業高等学校文化祭
- ⑦ 館林商工高等学校模擬授業
- ⑧ 宇都宮文星芸術大学附属高等学校模擬授業
- ⑨ 地元企業と連携した実習授業・講習会等実施

- ・今年度伊勢崎市と地域連携強化に向けて地域包括連携協定締結に向けて手続きを進めている。

(9) 法令等の遵守

- ・関係法令の遵守と適切な運営がなされているか ④ 3 2 1
- ・個人情報に関しその保護のための対策がとられているか 4 ③ 2 1
- ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 3 2 1

① 課 題

ア. 全職員が法令遵守の徹底に努めている。また個人情報を適切に保護するための共通理解に基づく取り組みを行っており、特に問題は生じていない。今後とも社会情勢の変化に応じて高い意識の保持・向上が求められている。

② 今後の改善方策

ア. 引き続き日常的に各種会議や打ち合わせ等を通じて法令遵守・個人情報保護についての見識を深め共有化の徹底を図っている。

イ. 教務部を中心にコンプライアンス関連規定の整備等体制構築を今年度中に進める。

③ 特記事項

- ・国土交通省「不正改造防止」の出前講座・車両検査を実施。(6月)
- ・伊勢崎警察署による「交通講話」で法令遵守指導を実施(6月)
- ・東京入国管理局(留学審査部門)から「在籍管理が適正に行われていると認められる教育機関(適正校)」として選定されている。
- ・文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価を実施し、併せて文部科学省「職業実践専門課程」認定要件である学校関係者評価も実施している。(自己評価委員会、学校関係者評価委員会、それぞれ年間2回開)

(10) 財務

- ・中長期的に財務基盤が安定しているか 4 ③ 2 1
- ・予算・収支計画が有効かつ妥当なものとなっているか 4 ③ 2 1
- ・会計監査が適正に行われているか ④ 3 2 1
- ・財務の情報公開体制が整備されているか ④ 3 2 1

① 課 題

- ・なし

② 今後の改善方策

- ・なし

③ 特記事項

- ・財務の情報公開については、ホームページに公開している。
- ・学校法人として監査法人の会計士事務所の監査を受け「適正」の評価をいただいている。また、理事会、評議員会において報告・承認されている。

(11) 社会貢献・地域貢献

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行 4 ③ 2 1

っているか

- ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

④ 3 2 1

① 課 題

- ・なし

② 今後の改善方策

- ・なし

③ 特記事項

- ・群馬県赤十字血液センター「献血」に協力（年2回実施）～毎回、学生・教職員100名以上が協力。＊平成27年度群馬県献血功労者表彰「厚生労働大臣表彰」～20年以上にわたり組織的に献血。（1,176団体・個人の中では唯一「厚生労働大臣表彰」。
- ・高校の文化祭・授業に協力（スーパーカー使用、実習授業の実施）
- ・実習場・教室等の施設設備の使用提供（群馬県自動車車体整備協同組合の講習会等）
- ・サッカー場の使用提供（地域の少年サッカーチーム、高校サッカー部等）
- ・赤堀今井町夏祭り来場者駐車場として学生駐車場解放。
- ・伊勢崎市との協業に係る可能性について、現在伊勢崎市教育委員会と協議中。

（1） キャリア教育の展開

職業体験出前授業を実施し、自動車整備士の仕事内容を理解していただきます。

児童・生徒に来校していただき、作業・授業などから整備体験を実施します。

（2） 環境教育の促進

HV、PHV、EV車に関する授業を開き、持続可能な環境に優しい自動車のあり方について学ぶ場を提供します。

（3） 当校外国人留学生との地域との共生促進

外国人留学生に多文化共生事業「お悩み相談会」への参加を声かけすることで、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを一緒にできないか考えております。

（4） その他

スポーツ・文化・芸術活動から協働できることはないか、市内に在住する外国人留学生に対して経済的な支援を行っていただくことはできないかを考えていきます。

5 重点目標達成についての評価及び総合的な評価結果

入学生の経済状況・国家試験結果報告

日本の今後の経済情勢につきましては、2025年度の経済成長率は0.5%と予測されており、前回の予測よりも下方修正されています。物価上昇率も2.2%に引き下げられ、経済の伸び悩みが懸念されます。影響を与える要因としましては、米国の関税政策が日本経済に影響を与えており、企業の設備投資が伸び悩む可能性があります。日銀の経済対策は、政策金利を0.5%程度で据え置き、慎重な対応を続けています。消費者の負担が増加し、特に低所得者層にとってはさらに厳しくなることが見込まれます。経済の先行きは不透明感ですが、企業の対応次第ではよい方向に変化が期待できます。

令和6年度の国家試験合格率では、1級自動車整備科57名全員合格、2級自動車整備科122名、2級ガソリン整備士121名合格（1名不合格）、2級ジーゼル整備士122名全員合格（取得率100%）、車体自動車整備士26名全員合格となりました。令和7年度の国家試験で2級自動車整備士の国家試験が終了となり、令和8年度より2級自動車整備士（総合）となります。新国家試験の対応にも万全の体制で臨み、全員の合格を達成します。1級自動車整備士の国家試験も令和8年度より1級自動車整備士（総合）と変更になります。教科書の変更に伴い学習内容が変わり、そのため必要教材・施設設備の変更等も考えられます。状況の変化に遅れないよう対策を取ってまいります。今後も全員の国家資格取得に向け全教職員一丸となり対応してまいります。

就職状況は、企業の人手不足の状況に変わりはなく、今後も需要が高いと予測されていますが、業界の変化に対応する必要があります。今年度も就職100%人手不足が深刻化しており、特に若手整備士の不足が問題視されています。EVやHV、PHVの普及により、従来の整備技術だけでは対応が難しくなっています。今後の展望では、EV、HV車の整備技術を持つ整備士の需要が増加、ITスキルを持つ整備士が求められ車両データの解析やソフトウェアの更新の知識が重要になってきますが、自動車整備士の資格を持つ人材は売り手市場であり、未経験者向けの求人も増えています。自動車業界は大きな変革期を迎えていますが、技術を磨けば安定した職業としての魅力は充分にあります。整備士資格の重要性を更に高校の先生方に高めていくことが必要と考え、広報活動でも求められている職種で、手に職をつける重要性を訴え続けます。

進路指導は、学生にとって最重要課題であり、将来の就職先を決めることは、単に職を選ぶことなく、自分自身の方向性を決定することに繋がります。昨年度も本校独自で実施しております、1日1社の会社説明会を企業様のご協力により開催しました。学生、保護者にはたいへん好評で、入社後のミスマッチ、ゼロを目指し今年度も実施予定。学生の負担であります履歴書の作成では、集中力の低下などから書きミスが頻発して、教員の指導の負担にもなっており、残業時間の増加にもなっております。教員のモチベーションの低下は、学生指導、教案作成・教材研究にも影響します。これを軽減するために今年度より企業様に相談してパソコンでの履歴書作成に着手します。企業様によっては手書きでの提出を求められる場合もありますので、進路部を中心として担任、学年主任等連絡をさらに密にして学生指導にあたります。

自動車業界は大きな変革期を迎えていますが、技術を磨けば安定した職業としての魅力は充分にあります。今後の動向を注視してまいります。